

北日本大学アメリカンフットボール王座決定戦・第33回パインボウルは23日、仙台市の元気フィールド仙台（仙台市新田東総合運動場）で行われ、北海学園大が東北大を24-14で下し、初優勝を飾った。北海学園大は同ボウルの勝者として、12月20日に東京・アミノバイタルフィールドで開かれるホワイトボウルで、関東大学リーグの代表校と交流試合を行う。

例年は全日本大学選手権（甲子園ボウル）の東日本代表校決定戦準決勝を兼ねるパインボウルだが、今年はコロナウイルス対策で同選手権が中止となり、海道代表と東北代表のプライドをかけた一戦となった。北海学園大は2年ぶり3度目、東北大は9年連続30度目の出場で、両校の顔合わせは3度目。過去の対戦は北海学園大が2連敗していた。

ともに強力なラインを誇る両校。北海学園大は第1Q、東北大の最初の攻撃シリーズでエースRB石尾（3年）のTDランを許したが、その後はDL坂本大弥（4年、札幌開成高）らの激しいラッシュとLB竹内佑至（4年、旭川明成高）らのハードタックルで追加点を与えなかった。

第2Q、北海学園大の反撃が始まった。QB小笠原丈瑠（2年、札幌・北海高）からエースWR佐藤玲太（3年、札幌光星高）へのパスが決まり、RB阿部龍太郎（4年、室蘭栄高）とQB小笠原のランで進むと、K野崎蒼（2年、札幌手稲高）が37ヤードを蹴り込んで3-7。LB松本竜輔（2年、旭川龍谷高）のインターセプトで得た続く攻撃シリーズでは、QB小笠原とRB阿部のランで前進し、最後はQB小笠原からWR屋敷龍作（3年、石狩南高）への7ヤードTDパスが決まり、10-7と逆転した。さらにその5分後にはRB阿部がダイブで飛び込み、16-7とリードを広げた。



後半も北海学園大は攻守にのびのびとしたプレーを見せた。第3Qに、北海学園大のファンブルから東北大にTDを許したが、第4QにはQB小笠原がWR野本了輔（1年、札幌大谷高）へ9ヤードのTDパスを決め、24-14として勝負を決定づけた。その後も、DLの激しいラッシュで東北大QBに圧力をかけ、反撃を許さなかった。

試合の最優秀選手には、公式戦3戦目ながらランとパスでチームを好リードしたQB小笠原が選ばれた。パインボウルでの北海道勢の勝利は、2007年の北海道大以来で13年ぶり。

北海学園大の高木幸樹ヘッドコーチは「試合前に選手には、できることをいつも通りやろうと言った。今日は守備が良かった。QBも良かった。オフの体力作りも生きた」と念願の勝利の言葉を弾ませた。OL本間航史主将も「勝つことしか考えていなかった。先制点を許しても、取り返せる自信はあった。QBはシーズン始めと比べて別人のように成長した」とチームの力に胸を張り、ベストディフェンスライン賞に選ばれたDL坂本は「東北大の重量ラインに、重心を低くして対抗した。こっちもラインのチームだと見せつけた」と力をこめた。

最優秀選手に輝いたQB小笠原は「2年生にはMVPは重い」と照れながら「今日は初めてのグラウンドで緊張もあったが、人工芝は走りやすかった」と自信も見せた。次は12月20日のホワイトボウル。MVPは「リードミス無くし、走力を付け、パスも精度を上げて臨みたい」と決意していた。

